

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第30号 2022.04.18 発行

4号棟も完成に近づきました

ここ八ヶ岳の地では場所や標高を変えて長い期間桜を楽しむことができますが、その季節もそろそろ終わりをむかえつつあります。ピンク色が華やかだった世界から、新緑の若々しさが鮮やかな季節へと移り変わってきました。木々の芽吹きが急速に進んでいますが、梅之木遺跡4号棟も完成に向けて急ピッチで作業が進んでいます。今までの縄文住居にはなかった意匠を凝らしたづくりも随所に取り入れられていますので、以前までの縄文住居との違いを発見しに遊びに来てください。

❖ 3号棟の補修作業

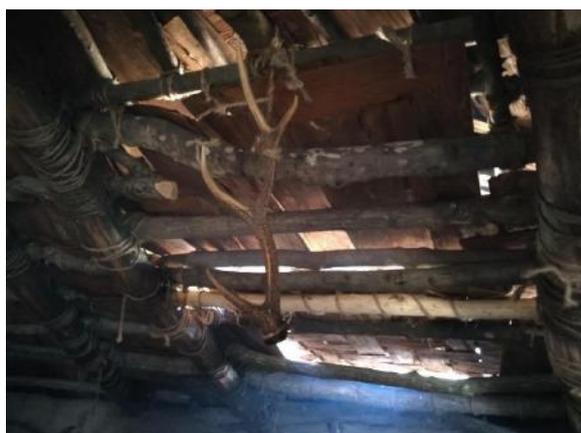
今、見比べてみると、3号棟と4号棟の屋根のこう配の違いに気が付きます。完成から1年ですが、被せた土が流れ落ち下に敷いたビニールシートがむき出しになった部分が目立ち始めてきました。垂木を追加して横木を縛り直し小枝を追加した上からもう一度土を被せ直して修復しました。メンテナンス作業は今後も続くのでしょうか？



❖ 4号棟の窓に蓋が取り付けられました

4号棟は宿泊施設ということなので窓が閉じられるようにふたを取りつけました。杉皮をあじろ編みにし、周囲を紐で綴じて細工と補強したところ、見た目も格段に良くなりました。また、内側から紐を引くことにより窓蓋の開閉ができ、縄文住居とは思えないような、ずいぶん近代的？な工夫が盛り込まれています。縄文人もこれくらいの事は考えていたかもしれませんが、だれも見ることが無いので何も言えません。

鹿の角を引くと窓の蓋が開きます



あじろ編みと縁取りの縄がきれいです



❖ 埋蔵文化財センターツアーの実施

4月16日には、予想通り？予定通り？20名に参加いただき『埋蔵物センターお宝ツアー』が開催されました。メンバーの中でも文化財センターの中に入るのは初めての人も多かったのではないかと思います。またとない貴重な時間を過ごすことができました。縄文のイベントに初めて参加されたかたも多くいらっしゃいましたが縄文住居建設の最後の機会への参加につながればと思います。



佐野さんの説明を聞くと、時代の移り変わりとともに土器の形状や模様の付け方が生活様式の変化に合わせて変わっていくことがよく理解できます。

タイムキパーの熊さんがいてもなかなか佐野さんの話が終わりません。時間が気になりますがなんとかお宝ツアーを終了して梅之木遺跡へ移動。



4号棟の室内に全員入り、火を囲んでもまだ余裕があり、この建物の大きさを改めて実感することができました。

なかの梯子も、紐を引けば引き上げることが出来るようになっており梯子を使わないときは引き上げて室内を広く使うことができます。

天窗の明り取りだけでこの明るさ。ここに6台のベッドを入れたらどのような光景になるのか、想像できません。

縄文の暮らしを想像するのも楽しいですがこの施設を使ってどのような体験を提供できようになるのか活用方法を考えてみるのも楽しくなります。

北杜市市長の『泊まりに来ます！！』との公約が、果たして守られるか否や??

また、外国からの旅行者が見込めない中でどのような人たちが体験に訪れてくれるのも楽しみです。

いろいろなアイデアがあると思いますが、市役所からNPO法人へと活動の場を移された佐野さんが今まで以上に活躍の範囲を広げられていくことを期待するばかりです。



❖ 次回イベント予告（4号棟完成式と5号棟地鎮祭、プラスもちつき大会の開催）

5月14日（土曜日）には、理科室のメンバーとともに1月に中止となった餅つき大会と一緒に開催する予定です。5月の会報にチラシを同封してもらおう予定ですので詳細はそちらでご確認ください。

まだまだコロナ感染予防のため制限が多い世の中ですが、屋外という事もあり、多くの皆さんが参加できる数少ないイベントの一つかと思います。参加はふるさと倶楽部会員に限りませんので、ご近所のお友達や遠方から来られたご家族やご友人も一緒にお誘いいただければと思います。

❖ 新規会員募集

特に申し出が無い限り、今までの「縄文住居をつくる会」会員は自動継続されて新年度も会員として作業やイベントに参加することができます。今年度建設する予定の5号棟が最後の縄文住居建設となりますので、お知り合いで縄文住居建設に興味を持たれている方がいらっしゃればぜひお誘いください。新規会員の加入は、いつでも大歓迎です。